

平成 26 年 4 月 15 日
株式会社日本政策金融公庫**日常生活に密接に関係した生活衛生関係営業の景況に持ち直しの動き続く**
日本公庫「生活衛生関係営業の景気動向等調査（2014 年 1～3 月期）」より※調査の全文につきましては、[こちら](#)をご覧ください。**【調査結果のポイント】****○売上、採算、業況判断 D I はいずれも前年同期を上回る**

生活衛生関係営業の 2014 年 1～3 月期の売上、採算、業況判断の各 D I は▲24.0、▲12.5、▲29.1 となり、前年同期に対してそれぞれ 16.4 ポイント、19.3 ポイント、19.8 ポイント上回りました。いずれも 4 期連続で前年同期を上回っており、生活衛生関係営業の景況は持ち直しの動きが続いています。業況判断 D I を業種別にみると、全業種で前年同期を上回っています。上昇割合は、「飲食業」22.0 ポイント、「理容業」18.8 ポイント、「美容業」17.3 ポイントなどとなっています。

また、来期（2014 年 4～6 月期）の業況判断 D I 見通しは▲20.9 となり、今期に比べ 8.2 ポイントの上昇を見込んでいますが、昨年（2013 年 4～6 月期）の実績（▲15.1）に比べ、5.8 ポイント低くなっています。この背景には、消費増税の影響があると思われます。

<特徴的な業況判断（好転）理由>

- ・今年に入り順調に推移している。個人、会社関係ともに予約件数が増えている（すし店、岡山県）。
- ・景気が少し上向いている気がする。家族連れが増えた（料理店、長野県）。
- ・来客数が増え、客単価も上がっている。こうした景況感はいしばらく続くと思う。収益もアップしたので、従業員の給与等にも反映している（喫茶店、広島県）。
- ・コンパニオンを増員してお客様の満足度が高まった（社交業、宮崎県）。
- ・アベノミクス効果が徐々に浸透してきた。オリンピックの東京開催決定もあり、宴会が増えた（その他飲食店、東京都）。
- ・消費増税前で利用客数はますますであった（その他飲食店、岡山県）。
- ・販売価格がアップし好転の兆しがみられる。消費者の購買傾向が安価なものから美味しいものに移行している（食肉販売業、京都府）。
- ・百貨店の来店客数が伸びていることから、好転した（食鳥肉販売業、大阪府）。
- ・昨年末に店舗を改装した。新メニューを提案したことで客数、客単価が増えた（美容業、島根県）。
- ・客室を全面改装したこともあり、関東方面からのお客が増えてきた（ホテル・旅館業、福島県）。

<お問い合わせ先>日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部
生活衛生情報支援グループ 担当：野俣、谷藤 TEL 03-3270-1653

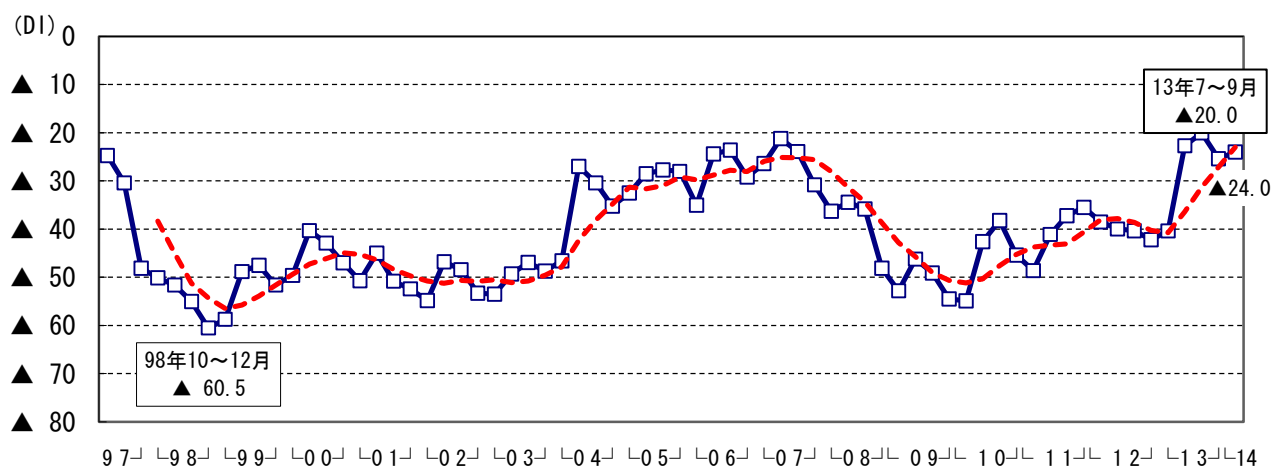
【調査概要】

生活衛生関係営業の景気動向等調査は、全国の生活衛生関係営業の主な業種について、その景気や設備投資の動向などを把握するため、定期的に(年4回)実施しているものです。

調査時点	2014年3月上旬			
調査方法	郵送調査			
調査対象	生活衛生関係営業 3,220 企業			
有効回答企業数	2,977 企業 (回答率 92.5%)			
(業種内訳)	飲食業	1,425 企業	映画館	51 企業
	食肉・食鳥肉販売業	143 企業	ホテル・旅館業	161 企業
	氷雪販売業	61 企業	公衆浴場業	106 企業
	理容業	363 企業	クリーニング業	248 企業
	美容業	419 企業		

参考1 売上DIの推移

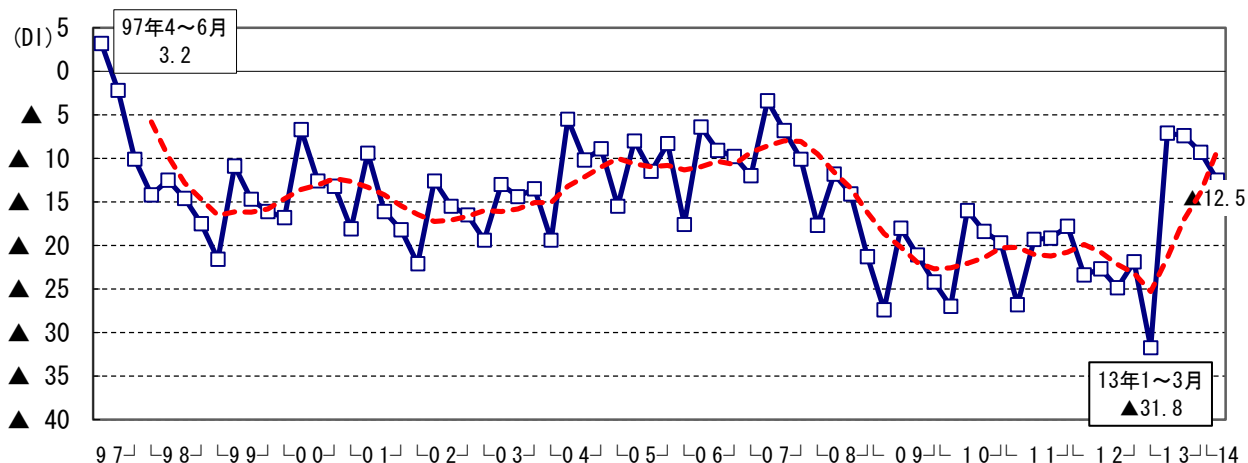
売上DI = 前年同期比「増加」企業割合 - 「減少」企業割合



- (注) 1 点線は4期間移動平均 (以下同じ)
2 四角囲いは近年の最低値及び最高値 (以下同じ)

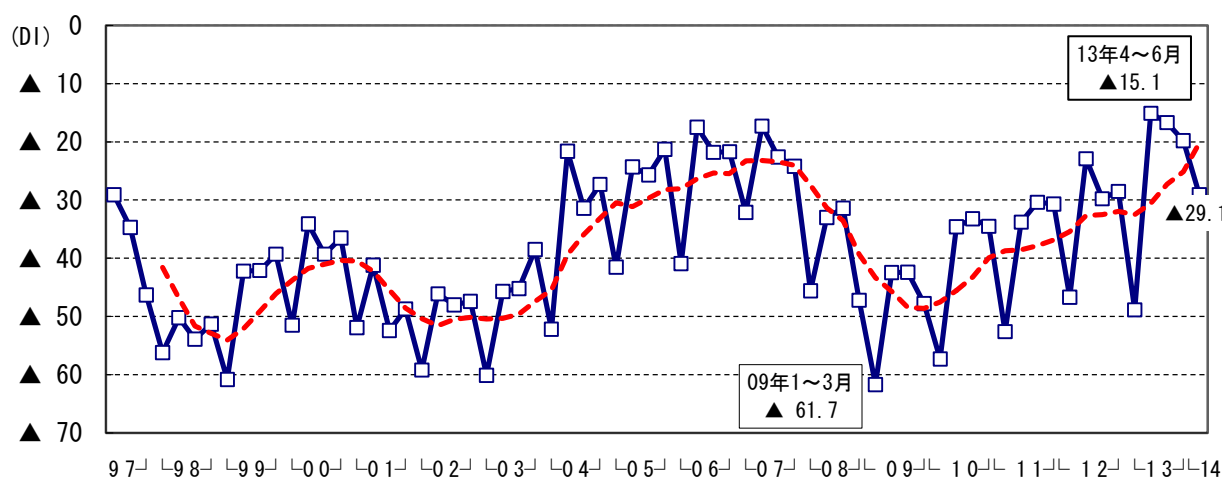
参考2 採算DIの推移

採算DI = 当該期「黒字」企業割合 - 「赤字」企業割合



参考3 業況判断D Iの推移

業況判断D I = 前期比「業況好転」企業割合 - 「業況悪化」企業割合



参考4 売上、採算、業況判断D Iの今期D Iと前年同期実績との差

業種	売上D I (前年同期実績との差)	採算D I (同左)	業況判断D I (同左)
飲食業	▲20.2 (17.9↗)	▲11.3 (23.6↗)	▲23.2 (22.0↗)
美容業	▲29.0 (11.1↗)	▲6.9 (13.5↗)	▲31.5 (17.3↗)
理容業	▲39.4 (15.3↗)	▲17.1 (11.9↗)	▲42.4 (18.8↗)
クリーニング業	▲43.1 (13.3↗)	▲37.1 (24.1↗)	▲59.7 (14.1↗)
ホテル・旅館業	▲8.1 (10.9↗)	▲9.9 (24.6↗)	▲19.3 (22.6↗)
食肉・食鳥肉販売業	▲10.5 (31.6↗)	▲4.9 (▲1.3↘)	▲28.0 (28.9↗)
公衆浴場業	▲21.7 (14.6↗)	▲0.9 (11.4↗)	▲9.4 (7.4↗)
氷雪販売業	▲14.8 (30.3↗)	▲9.8 (25.5↗)	▲37.7 (22.3↗)
映画館	7.8 (20.0↗)	3.9 (28.4↗)	2.0 (24.4↗)
生活衛生関係営業全体	▲24.0 (16.4↗)	▲12.5 (19.3↗)	▲29.1 (19.8↗)

参考5 業況判断D Iの来期見通しと今期実績との差

業種	業況判断D I 見通し (今期実績との差)
飲食業	▲21.3 (1.9↗)
美容業	▲17.7 (13.8↗)
理容業	▲27.8 (14.6↗)
クリーニング業	▲20.6 (39.1↗)
ホテル・旅館業	▲12.4 (6.9↗)
食肉・食鳥肉販売業	▲21.0 (7.0↗)
公衆浴場業	▲34.0 (▲24.6↘)
氷雪販売業	6.6 (44.3↗)
映画館	▲21.6 (▲23.6↘)
生活衛生関係営業全体	▲20.9 (8.2↗)